

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 20 年 1 月 20 日

1. 概要

実践団体名	黒石校区コミュニティ進協議会	
連絡先	電話番号	0836-44-0881
プランタイトル	せいふていねっと黒石 ~ひとつの命も失わないぞ~	
目的	昭和17年8月当地区を襲った周防灘台風は、65年経った今も多くの人の心の傷跡として残っているが、体験者の高齢化に伴い風化しつつある。 この悲惨で貴重な体験を後世に語り継ぐための諸事業を行う。	
プランの概略	<ol style="list-style-type: none"> 1. 散逸している当時の諸資料をまとめ記録誌を発刊し防災の警鐘にする。 2. 校区内を流れる2つの河川の浸水マップを作成しパソコンによるジオラマを作成する。 3. 当時の写真・体験談をデータベース化する。 4. 校区ホームページに防災に関する情報を掲載し、校区民の啓発資料とする。特に若い世代の視覚に訴える。 5. 自主防災会の結成 6. 校区内公共施設・電柱等に浸水表示板・浸水線テープ 	
プランの対象	校区住民 約7,500人 (内 小学生 450人 中学生 400人)	
実施日時	<ol style="list-style-type: none"> (1) 5月12日 (周防灘台風の写真を見る会) (2) 7月20日～ (浸水線レベル測量開始) (3) 8月19日 (地域の子供達と浸水線テープ貼付け) (4) 8月26日 (自主防災会結成式) (5) 10月10日～ (公共施設等に浸水線表示板設置) (6) 1月17日 (パソコンジオラマ発表) 	
実施場所	<ol style="list-style-type: none"> (2)(3)(5) 校区区域内 (4) 黒石小学校 (1)(6) 黒石ふれあいセンター 	
連携した団体	連携団体の有無	有
連携した団体	連携した団体	宇部市 総務部 防災課 宇部市 消防本部 宇部フロンティア大学情報システム科 陸上自衛隊山口駐屯地 山口ラッコ隊

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	連携した きっかけ・理由	自主防災会の発会に防災体験等を組み入れたい。 データベース化に学生の協力を得て、防災に対する認識を深めてもらう。
	連携団体への アプローチ方法	宇部市防災課を通じて自衛隊・消防本部に防災体験への協力を要請 宇部フロンティア大学情報システム学科にデータベース化の検討依頼
	連携団体との 打ち合わせ回数	宇部市防災課 5月より6回 宇部フロンティア大学 5月から8月まで2週間に1回 (プレゼンテーションを含めて8回)
	連携団体との 役割分担	宇部市防災課・・・自主防災会結成式プログラム立案 自衛隊・消防本部・・・倒壊家屋からの救出訓練・負傷者の搬送訓練 山口ラッコ隊・・・着衣泳の実技指導 宇部フロンティア大学・・・データベース作成 黒石ホームページ委員会・・・浸水ジオラマの作成

2. プランの立案過程

プラン立案 メンバーの 人数と役割	団体内の スタッフ総人数	5人
	外部スタッフの 総人数	9人
	主なメンバーの 役職・役割	宇部市防災課 係長 自主防災発会式プログラム立案・実行・他団体との折衝 厚東川・中川洪水マップの入手 宇部フロンティア大学 教授 データベース作成学生指導・情報収集 黒石まちづくりサークル 会長 記録誌の編集・資料収集 写真撮影 浸水線の測量 浸水表示板及び浸水テープの設置・貼付け
プラン立案 に要した 日数・時間	立案期間	19年4月から20年1月
	立案時間	94時間
	上記のうち 打ち合わせ時間	22時間

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

プラン立案 で注意を 払った点	<p>記録紙の作成・・・当時の写真と現在の場所と特定し、危険箇所が分かるようにする。</p> <p>冊子は、できるだけビジュアルにする。</p> <p>体験談は、校区内に生存している人に依頼する。</p> <p>防災会の結成・・・予想される災害は風水害であるので、水害に絞った体験できるようなものにしたい。単なる結成式のセレモニーでなく参加者参加型にする。</p> <p>パソコンジオラマ・・・ホームページに防災ページとして掲載する。</p>
プラン立案 で苦労した点	<p>記録紙の作成・・・65年前と現在の比較が当然といえば当然であるが場所の特定が難しかった。</p> <p>パソコンジオラマ・・・応用できるソフトが中々なかった。</p> <p>浸水マップを自治会毎の拡大する時に住居図まで詳細に記述すること。</p>

3. 実践にあたっての準備

準備に 関わった方と 人数・役割	団体内の スタッフ総人数	23名
	外部スタッフの 総人数	7名
	主なメンバーの 役職・役割	自治会長・・・浸水表示板設置箇所の選定 防災課職員・・・自主防災会結成プラン 消防本部・・・倒壊家屋の設計
準備に要した 日数・時間	準備期間	5月から8月まで
	準備総時間	12時間

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

	上記の打ち合わせ回数	7回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	黒石校区自治会連合会 黒石校区子ども会育成連合会
	どのように働きかけたか	校区だよりにて全世帯に広報 自治会長に対して動員要請
	結果	自主防災結成式には 350 名の参加があった
保護者・PTA への働きかけ	働きかけた保護者・PTA 組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	
	入手先・入手方法	
	機材教材の選定理由	
参加者の募集	募集方法	防災会結成を掲載した校区だよりを各世帯に配布 自治会長に協力依頼
	募集期間	2ヶ月間
	参加予想人数	300名

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>実際の参加人数</p>	<p>350名</p>
	<p>募集方法の成功点</p>	<p>自治会毎に参加者数をあらかじめ設定した</p>
	<p>募集方法の失敗点</p>	<p>特になし</p>
<p>準備で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(1)自主防災会結成式には、体験型の訓練も合わせて行う。訓練にはできるだけ多くの校区民が参加できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒壊家屋からの救出・搬送訓練・・・自衛隊・消防本部と共に校区民 11名の共同訓練を行った。 ・着衣泳訓練・・・校区より男性7名・女性2名の参加で行った。 ・非常食試食・・・自衛隊と校区福祉委員のメンバーの共同作業で非常食（カレーライス）を調理し、配食を行った。 <p>(2)パソコンジオラマの作成・・・校区全体の洪水マップは入手できたが、個別の住宅まで表示されていなかった。拡大した時に、住宅が表示することによりリアルに感じられるようにした。</p>	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2007年 5月	記録誌の作成	周防灘台風の被害写真	校区内体験者に写真の場所を特定してもらう
2007年 6月	データベースの構築	被害写真 体験談の収集	体験記執筆依頼 プログラミング
2007年 7月	記念誌発行	測量機器の調達	浸水線の測量とマーク付け 被害地点の撮影
2007年 8月	自主防災会結成式	倒壊家屋の建設 非常食の炊出し	体験者による「周防灘台風を語る」 倒壊家屋からの救出訓練 着衣泳訓練 大風水害データベースの発表 非常食の試食
2007年 9月	パソコンジオラマの作成	厚東川洪水避難地図 中川洪水避難地図	パソコンに地図の取り込み 侵水域の塗りこみ プログラミング〈12月完成目標〉
2007年 10月			
2007年 11月			
2007年 12月	記録誌発行	割り付け原稿	印刷発行〈1月末刊行予定〉
2008年 1月	記録発行	校正	公共機関・各自治会・小中学校に配布

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【A. 素材】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル				
実施日				
所要時間				
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意したもの)				
場所				

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【B. イベント】（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	周防灘台風写真を見る会	自主防災会結成式	浸水線表示	パソコンジオラマの発表
実施日	5月12日	8月26日	8月19日	1月17日
所要時間	2時間	4時間	3時間	1時間30分
達成目標	65年前の地点と現在の地点を特定	防災意識の高揚	校区内電柱に浸水線テープの貼付け	各自治会毎に侵水域の説明 震災後の心のケアの講演会
生成物				
進め方 (箇条書き)	写真をスクリーンに写し 現在地点を特定する	1、発会式 2、体験を語る 3、着衣泳指導訓練 4、倒壊家屋からの救出 訓練 5、非常食の試食	1、全体方針説明 2、自治会毎に大人と子どもが一緒に貼付け	1、講演「災害が起こったときに」 2、パソコンジオラマ発表
ツール (特別に用意したもの)	CD (写真) パソコン	模擬倒壊家屋 非常食用食材	浸水線テープ 脚立	パソコン
場所	黒石ふれあいセンターミーティングルーム	黒石小学校体育館・プール・グラウンド	校区内	黒石ふれあいせんたー世代交流ホール

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	浸水線マーキング	浸水線マーキング	災害が起こったときに	
実施日	7月19日	8月19日	1月17日	
所要時間	3時間	2時間	2時間	
達成目標	校区内電柱等にマーキング	子ども達とマーキング	ジオラマの説明 災害時の心のケア	
生成物				
進め方 (箇条書き)	1、自治会毎にマーキング箇所の設定	1、総合説明 2、電柱等に浸水テープの貼付け	1、講演「災害が起こったときに」～貴方ができること～ 2、ジオラマ説明	
ツール (特別に用意したもの)	脚立	浸水線テープ 脚立	パソコン プロジェクター	
場所	校区内	校区内	黒石ふれあいセンター世代交流ホール	

**2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 実施後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水線や表示板などを添付したことにより改めて周防灘台風の猛威がわかった。 ・着衣泳などを体験し、災害時には沈着冷静さが大切ということが分かった。 ・防災意識を常に持つためには単発行事でなく持続性を持っていただきたい。 ・体験談を聞いて、今も鮮明に覚えていられる方に感銘すると同時に、二度と災害がないように気をつけねばと思った。 ・地域を回ってみて、危険箇所が多くあるのに驚いた。 ・日頃、会話したことのない地域のおじさんたち共同作業は面白かった。 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの登下校時に信号待ちなどしている時に、浸水線を見ることによって防災について考えるようになった。 ・自治会単位で行われる溝普請や道普請の際に、防災という観点からも道や溝を見直すようになった。 ・ホームページの防災を掲示することにより、地域に無関心な若い世代にも防災という共通認識を持つようになった。 	
成果物	<p>記録誌「わすれまいぞ 周防灘台風」 ホームページ「防災」 データベース「昭和17年宇部市風水害アーカイブズ」 周防灘台風浸水線</p>	
広報方法	広報した先	宇部日報
	広報の方法	取材依頼（風水が写真を見る会・自主防災会結成式） 報道依頼（自主防災会結成式）
	取材に来たマスコミ	宇部日報 NHK TYS（テレビ山口） KRY（山口放送）

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	広報された内容	周防灘台風「大水害の体験」体験者による当時の写真説明 (宇部日報記事) 黒石校区自主防災会結成式 (NHK.KRY.TYSテレビニュース報道・宇部日報記事)
	成功点	宇部市各校区に自主防災会結成の機運が加速された
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<p>自主防災会の結成は、従来漠然と理解していた防災についてより実感ができたと思う。校区全世帯の20%以上の参加者が集った結成式は防災について常日頃からの注意が肝要であることが理解できたのではないかと思う。また、災害に遭遇した心構えなども勉強できたと思う。</p> <p>データベース・パソコンジオラマ・記録誌と作成に時間を取られすぎ実際に活用するところまでは行かなかったが、来年度如何に活用し防災に役立てるかが課題である。</p> <p>教育機関(小・中学校)への働きかけも「ゆとり教育」の見直しなどが検討、されている昨今、時間を割くのは難しい状況にあるので、子ども会などの行事や自治会の会合などに出向いて防災教育をする必要があると感じた。</p>	
今後の予定	来年度以降の取り組み方	自主防災会が、結成されたのだが地道な日常活動を通じて永続的かつ恒久的な防災活動に取り組む。
	ぜひ実施してみたい取り組み	<p>校区内危険箇所の把握とその対応を行政とも検討し対策(改修工事など)を講じたい。</p> <p>パソコンジオラマにより自治会単位で防災教育を開催する。</p> <p>小中学校においてパソコンジオラマを活用し防災について考える時間を作りたい。</p>

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

自由記述

校区コミュニティ推進協議会では3年前より、自主防災についての研究（まちづくりサークル）を行ってきた。校区各自治会より約40名の参加により1年目は、色々な災害を体感した。2年目となり、校区内をあらゆる角度から見直し作業を行い、かなりの問題点が抽出できた。3年目の今年は、幸にも防災育チャレンジに挑戦したところ採用された。

3年目は、自主防災の総仕上げの時期にもあたり、自主防災会の結成をメインに肉付けを行う事業として、記録紙の発行、パソコンジオラマの作成、周防灘台風の浸水線の表示など行うことができた。これまではどちらかと言えば、ハード面での検討であって、今年度作成できたソフト面を活用して防災教育を行いたい。

最後の講演会での講演は「ともすれば災害の発生時を捉えられ検討されていたが、発生後の心のケアが大切だ」と結ばれた。

校区全体としての防災組織は取りあえず完成したが、自治会毎の防災の情報ネットワーク作りが課題となってくるが、個人情報保護の観点からなかなか困難な面が生じてきている。個人主義の跋扈は、平時においては問題にならないが、非常時においては「個」の救助がむつかしなってくるのではないのでしょうか。